

2022 AUTOBACS SUPER GT Round.1

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI, N-RAK PHOTO AGENCY

OKAYAMA



2022 AUTOBACS SUPER GT 第1戦
OKAYAMA GT 300km RACE

2022年4月16日(土)～17日(日)
岡山国際サーキット(岡山県)

ENEOS X PRIME GR Supra
WIN!
2022 Round.1 OKAYAMA

公式練習

4月16日(土) 天候: 晴れ 路面: ドライ

2021年のSUPER GTではチーム初年度ながら開幕から優勝、第2戦で2位と、圧倒的なシーズン序盤を戦いながら、その後は重いサクセスウェイトに苦しめられ、目標としていたチャンピオンには届かなかったTGR TEAM ENEOS ROOKIE。2年目となる2022年、大嶋和也と山下健太というふたりのドライバーラインアップ、ENEOS X PRIMEのカラーリングはそのままに、悲願達成に向けてチームはさらなる強化を図った。

4月6日に計画が発表された『富士モータースポーツフォレスト』の一環として、昨年から建築が進められてきたROOKIE Racingの新ファクトリーが3月から稼働。さらに、トップチームで活躍してきた東條力チーフエンジニアがチームに加入。昨年もENEOS X PRIME GR Supraを強力なマシン

に仕立ててきた阿部和也エンジニアとのタッグで、さらなるパフォーマンスアップが期待された。

2022年のGT500クラスは空力の開発も認められ、まだ寒い2月からさまざまなサーキットでテストを積み重ね、3月に開催された2回の公式テストを経てENEOS X PRIME GR Supraのセットアップを続けて来たチームは、開幕戦の地、岡山国際サーキットに乗り込んだ。TGR TEAM ENEOS ROOKIEにとっては、昨年劇的なバトルの末にチームの初陣を優勝で飾った思い出のコースだ。もちろんENEOS X PRIME GR Supraにとって相性も良くデータも残っている。

朝から冷たい風が吹くものの晴天に恵まれた4月16日(土)の予選日、午前9時20分からの公式練習で、チームは2022年の挑戦を開始した。

ENEOS X PRIME GR Supraはまずは大嶋がステアリングを握りコースイン。立て続けに1分18秒台をマークしセットアップを進めた後、22周でピットイン。山下に交代すると、4

周を走りフィーリングを確認した後、ロングランを敢行。終盤には1分18秒261というタイムをマーク。4番手につけた。ふたりともフィーリングは良好で、予選の好結果が期待できた。



公式予選

4月16日(土) 天候:晴れ 路面:ドライ



午前の公式練習で得られた好フィーリングをもとに、午後2時からの公式予選に向け、チームはさらにセットアップをブラッシュアップ。まずはQ1のアタッカーに山下を据え、午後2時46分からのQ1に臨んだ。

山下はしっかりとタイヤを温めアタックに入ろうとするが、ヘアピンで#19 GR Supraがスピンを喫し、途中イエローフラッグが出される。ただ山下にはあまり影響はなく、5周目に1分17秒426という好タイムをマーク。3番手につけQ2の大嶋に繋ぐ。フィーリングは良好で、大嶋にポールポジションの期待を託した。

Q2のアタッカーを務めた大嶋は、2021年も「惜しいことばかりだった」となかなかポールポジションに届かなかった。しかし、2022年に向けてチームが体制を強化してくれた恩に報いるためにも、渾身のアタックを展開。チェッカーとともにマークされたタイムは1分17秒251！一気にトップに躍り出るのを確認すると、TGR TEAM ENEOS ROOKIEのピットは拍手とガッツポーズに包まれた。

大嶋にとっては6年ぶり6回目のポール。山下、そしてチームとともに喜び合った。大事なのは決勝だが、連覇に向けて絶好の位置を手に入れた。

決勝レース

4月17日(日) 天候:晴れ 路面:ドライ

ポールポジション獲得の喜びも醒めぬまま迎えた4月17日(日)の決勝日。大事なものは、この速さをレースの結果に繋げることだ。朝からさまざまなイベントをこなしながら、TGR TEAM ENEOS ROOKIEは午後2時のスタート進行に向けて準備を進めた。

この日の岡山国際サーキットは快晴で、前日より暖かく上着がいらぬ気候だったが、そのコンディションの影響か、スタート進行前のウォームアップでは、ステアリングを握った大嶋が若干の違和感を感じる。ただ、チームは気候に合わせセットアップを素早く修正。全42台のポールポジションから午後2時のスタートに臨んだ。

スタートドライバーを務めた大嶋は、1周目に2番手の#39 GR Supraからの猛プッシュをしのぐと、トップを守りジワジワとリードを広げ始めた。3周目には、1分20秒632というファステストラップをマーク。コース長が短いことから序盤すぐに出はじめたGT300クラスのラップダウンも冷静に処理すると、2番手以下が競り合いになったことからグングンとリードを広げていく。

スタート前に行ったセット変更も功を奏し、大嶋とENEOS X PRIME GR Supraは快調そのもの。安定したラップを刻み、リードはどんどん広がっていく。狭い岡山で、クラッシュ等が起きるとセーフティカーが出やすいことから、チームは当初から序盤のスティントを短くする作戦を立てていたが、30周目、大役を務めた大嶋がピットに戻ると、なんとその差は17秒。ピットで大嶋を待った山下にとっても、余裕をもって後半戦を戦えるリードを築いてきた。

2021年のレースでは、壮絶なトップ争いを展開した山下は、予選後から「ぶっちぎって勝ちたい」と語っていた。山下は17秒のリードをさらに広げるべく ENEOS X PRIME GR Supra をプッシュしていくが、その意気込みとは裏腹に、山下のペースは思



うように上がらない。ただ、序盤に築いた17秒のリードもあり、終盤に至ってもその差は10秒前後を保っていた。

しかし終盤、GT300クラスの戦いのなかでアクシデントも起き、68周目にはフルコースイエローが導入される。そのリスタート後も山下はリードを保っていたものの、78周目にはふたたびフルコースイエローが入った。

そのリスタート後は残り4周のレースとなったが、直後、山下にまさかのアクシデントが。目前のGT300車両がハーフスピンを喫し、なんとか立て直したものの、避けた方向に戻ってしまい、山下はわずかに接触してしまったのだ。これで2番手以下が急接近。

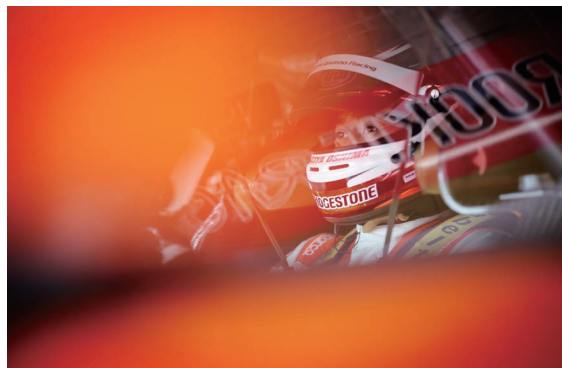
トップ争いはにわかに緊迫した。

ただ大きなダメージはなく、山下はそのまま1.798秒のリードを守りチェッカー！2021年に続く開幕戦優勝にチームは喜びを爆発させた。

喜びに沸いたのは豊田大輔オーナー代行も同様。「本当にありがとうございます。ポールポジション、優勝、ファステストラップを獲得ことをグランドスラムと言いますが、最後にぶつかってしまったので、完璧な勝利を来季こそ目指したい。そして最終戦こそ、表彰台のいちばん上に登るようにしていきたいですね」と喜びを語りつつも、長いシーズンへ向け、さらなる完全なる勝利と進歩をチームに促した。



ドライバー／監督コメント



DRIVER 大嶋 和也 *Kazuya OSHIMA*

岡山はもともと得意なコースでしたし、公式テストでもしっかりデータは取れていました。僕たちがテストで評価したタイヤもしっかり機能してくれましたね。昨年優勝を飾ってから、チームも体制を強化してくれ、やってきたことがしっかり結果に残って良かったです。今日は気温も上がり、ウォームアップではグリップ感が足りないところもありましたが、そこでセットアップを変更したこともこのコンディションのなかで良い方向に向かいました。決勝は乗りやすかったですね。次戦の富士は距離が長いレースですし、今回ライバルたちがみせてきたレース後半の速さは脅威です。僕たちがあれをできない原因をしっかりと解析し、良いクルマを作って昨年の2位以上の結果を残したいですし、シーズンを通じて取りこぼさないよう臨んでいきたいです。



DRIVER 山下 健太 *Kenta YAMASHITA*

決勝レースでは、大嶋選手が17秒差までマージンを築いてくれて、僕がそれをもっと広げるレースをしたかったのですが、ピットアウト後なかなかペースが上がらず、作ってもらった17秒差を削りながら最後は真後ろまで来られてしまったので、自分のスティントだけを見ると良いレースではなかった印象ですね。最後のフルコースイエロー明けには目の前でGT300がスピンしそうになり接触してしまったのも、2番手以下に詰められてしまった要因です。今回は危険な場面に多く遭遇するレースでした（苦笑）。なんとか避けながらゴールできたのは良かったです。前半のマージンのおかげですね。次戦は450kmのレースでいろんな戦略もありますし、昨年は優勝にも迫ったので、連勝を目指して頑張っていきたいと思っています。



DIRECTOR 高木 虎之介 *Toranosuke TAKAGI*

昨年に続き開幕戦で優勝を飾ることができました。今年は予選、決勝、ファステストラップとすべてトップで終わることができたので、昨年よりも良い結果となったのではないのでしょうか。今回開幕戦で勝てましたが、今後も取りこぼしがないようにシーズンを送っていかねばなりません。今回は特に、大嶋選手が本当に良い仕事をしてくれました。予選、決勝を通じてここ何年かでも最も良い走りだったのではないのでしょうか。後半の山下選手も、長いスティントでしっかりタイヤをマネジメントしてくれたと思います。最後のフルコースイエローの後に接触してしまっただけが良かったのですが、何が起きるか分からないのがSUPER GTですから。仕方ないです。昨年も第2戦で表彰台に乗ることができたので、また勝てるように頑張っていきたいです。



SUPER GT 第1戦 岡山国際サーキット リザルト

4月16日 公式練習 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time
1	23	MOTUL AUTECH Z	松田次生／R. クインタレッリ	MI	1'18.185
2	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔／G. アレジ	BS	1'18.212
3	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正／高星明誠	MI	1'18.255
4	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也／山下健太	BS	1'18.261
5	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹／平手晃平	YH	1'18.266
6	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴／牧野任祐	BS	1'18.308
7	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀／福住仁嶺	BS	1'18.561
8	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路／石浦宏明	BS	1'18.598
9	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴／B. バゲット	BS	1'18.602
10	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛／中山雄一	BS	1'18.628
11	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ／宮田莉朋	BS	1'18.727
12	17	Astemo NSX-GT	塚越広大／松下信治	BS	1'18.763
13	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京／大湯都史樹	DL	1'18.062
14	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資／阪口晴南	YH	1'19.199
15	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也／大津弘樹	DL	1'19.375

4月16日 公式予選 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tyre	Time
1	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也／山下健太	BS	1'17.251
2	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛／中山雄一	BS	1'17.387
3	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴／牧野任祐	BS	1'17.544
4	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路／石浦宏明	BS	1'17.729
5	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹／平手晃平	YH	1'17.812
6	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔／G. アレジ	BS	1'17.834
7	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴／B. バゲット	BS	1'17.859
8	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資／阪口晴南	YH	1'18.126
9	23	MOTUL AUTECH Z	松田次生／R. クインタレッリ	MI	1'17.697
10	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀／福住仁嶺	BS	1'17.717
11	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也／大津弘樹	DL	1'17.724
12	17	Astemo NSX-GT	塚越広大／松下信治	BS	1'17.822
13	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ／宮田莉朋	BS	1'17.950
14	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正／高星明誠	MI	1'17.993
15	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京／大湯都史樹	DL	2'10.722

4月17日 決勝レース (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time/Gap
1	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也／山下健太	BS	1h58'54.464
2	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴／牧野任祐	BS	0'01.798
3	23	MOTUL AUTECH Z	松田次生／R. クインタレッリ	MI	0'03.478
4	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路／石浦宏明	BS	0'09.761
5	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正／高星明誠	MI	0'11.701
6	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔／G. アレジ	BS	0'13.534
7	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴／B. バゲット	BS	0'20.789
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛／中山雄一	BS	0'20.943
9	17	Astemo NSX-GT	塚越広大／松下信治	BS	0'24.697
10	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀／福住仁嶺	BS	0'25.339
11	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ／宮田莉朋	BS	0'26.528
12	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京／大湯都史樹	DL	1'10.319
13	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資／阪口晴南	YH	1Lap
14	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹／平手晃平	YH	1Lap
15	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也／大津弘樹	DL	1Lap

2022 AUTOBACS SUPER GT

ポイントランキング (GT500・トップ 10)

Pos	No	Driver	Total	サクセス ウエイト
1	14	大嶋和也／山下健太	21	42
2	100	山本尚貴／牧野任祐	15	30
3	23	松田次生／ロニー・クインタレッリ	11	22
4	38	立川祐路／石浦宏明	8	16
5	3	千代勝正／高星明誠	6	12
6	36	坪井翔／ジュリアーノ・アレジ	5	10
7	12	平峰一貴／ベルトラン・バゲット	4	8
8	39	関口雄飛／中山雄一	3	6
9	17	塚越広大／松下信治	2	4
10	8	野尻智紀／福住仁嶺	1	2

※サクセスウエイトについて

SUPER GT ではシリーズ創設当初から成績による性能引き下げのため、重りを積む独自のハンデシステムを使用しており、2021 年からは「サクセスウエイト」という名称となっています。

2021 年の規則では、GT500 クラスでは第1戦から第6戦まで獲得ポイント×2kg を搭載しなければならず、参戦7戦目は獲得ポイント×1kg、参戦8戦目は獲得ポイント×0kg となります。

GT500 クラスでは車体の特性上、重りの搭載は50kg までで、以降はエンジンに噴射する燃料の流量を減らす＝燃料流量リストリクターの数値を減らし、パワーを下げる事が併用されます。GT500 クラスのサクセスウエイトの数値は下記のとおりです。しばしばチームやドライバーは出力ダウンの段階によって「1 リスダウン」「2 リスダウン」といった業界用語で表現します。

サクセスウエイト数値	0～50kg	51～67kg	68～84kg	85～100kg
車載ウエイト	0～50kg	34～50kg	34～50kg	35～50kg
燃料流量リストリクター	95.0kg/h	92.6kg/h	902kg/h	88.0kg/h

ROOKIE RACING

GT SUPER

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています



AISIN



Rozetta



NSK



ThreeBond